第Ⅰ部　戦後60年間の日本政党政治の変化

第1章　戦後最初の10年間……3

第2章　戦後政党システムの形成……10
——「55年体制」の成立と展開——

1　「55年体制」の成立と安定……10

2　「55年体制」の動揺……14

3　保守復調の時代……19

4　転換点——1990年と93年の総選挙……22

第3章　ポスト「55年体制」の展開……28

1　「保守化」の著しい進行……28

(1)「保守化」の概要

(2)　2大政党への勢力収斂傾向

(3)「保守化」の主役——民主党の登場と成長

2　自・公ブロックの形成……42

(1)　政権構成のあり方の変化と自公連立政権の安定化

(2)　自公選挙協力の意義

3　投票率の大幅な低下……48

(1)　投票率低下の概略

(2)　小選挙区での投票率低下に結びつくと思われる事実(1)
——当選者と次点者との得票率差の拡大

(3)　小選挙区での投票率低下に結びつくと思われる事実(2)
——有権者にとっての選択肢の減少

4　保守2党システムへの展望……62

(1)　自民党の中心性の継続

(2) 自民党の現状と将来の見通し
(3) 民主党の脆弱性
(4) 公明党の場合
(5) 左翼2党の場合
(6) 日本政党システムの展望——安定した2党システムの定着はあるか

第I部のまとめ　戦後日本の政党システムの変化から見えてくるもの……92

第II部　戦後政党政治の変化を促したもの

第4章　集票構造の安定と動揺……100
1　階級政治の成立と解体……101
(1) 55年体制の成立と安定の背景としての階級政治
(2) 文化政治の成立と崩壊
(3) 階級政治に基づく投票動員システムの確立と動揺
2　自民党による集票システムの再建と社会党の失敗……111
(1) 後援会の構築
(2) 企業による労働者動員
(3) 社会党の失敗
3　ポスト55年体制期の政党支持構造と集票システム……116
4　まとめ……123

第5章　争点構造と支配イデオロギーの変化……126
1　55年体制成立・安定期の争点構造……126
——戦後憲法体制をめぐる保革対立軸の形成
(1) 教育制度をめぐる保革対立
(2) 警察制度をめぐる保革対立
(3) 外交・防衛政策をめぐる保革対立

2　新しい政策領域と脱争点化……139
——日本における「戦後の合意」の形成？
(1) 経済成長政策
(2) 公害問題
(3) 社会保障問題
(4) まとめ——日本における「戦後の合意」の成立か？
3　合意の破壊と支配イデオロギーの変化……148
(1) 合意破壊の端緒——中曽根政権による先行的な合意破壊
(2) 社会党の政策とイデオロギーの「現実主義」化——不毛な試み
(3)「政界再編」とイデオロギー状況の変化
(4) ネオ・リベラリズム改革の体系的・徹底的な追求
——その帰結と有権者の評価
(5) 戦後憲法体制への正面からの挑戦——旧保革争点の復活？
(6) イデオロギー状況の変化と選挙政治
4　戦後の争点構造とイデオロギー状況の変化……190
——その検討から見えてくるもの

終　章　全体の要約と展望……197

補　論　2009年総選挙と政党政治……待鳥聡史…211
1　はじめに……211
2　2009年選挙で政党政治はどのように変化したか……212
(1)「保守化」の継続
(2) 自公選挙協力の意義
(3) 投票率の動向
(4) 政党システムの「形状」
3　変化を促したもの……219
(1) 階級政治の解体
(2) 争点構造とイデオロギー状況
4　おわりに……224

注……227
Appendix……257
2009年総選挙に関する*Appendix*……283
あとがき……289
人名索引……295
事項索引……297